

メキシコ研修レポート Enero de 2018

鈴木 萌

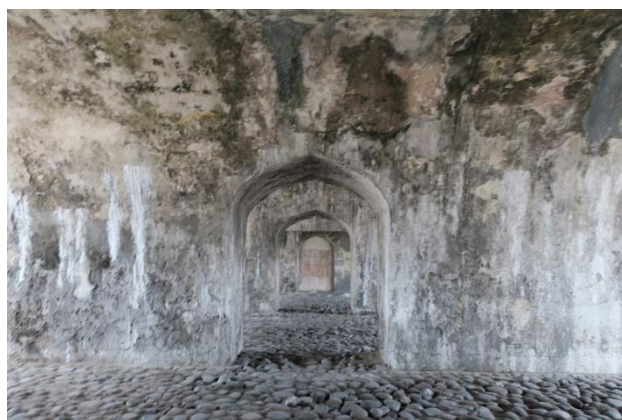
新年あけましておめでとうございます。渡航して約 5 カ月、色んなことがありましたが、無事にメキシコで新年を迎えることができました。さて、今回のレポートでは、前回のレポートに引き続き休暇中に訪れた街の紹介をしたいと思います。

ベラクルス Veracruz

ベラクルスはメキシコシティから東に 5 時間ほどに位置するメキシコ湾岸有数の都市です。メキシコ最古の植民都市として知られているほか、音楽や踊りが盛んなことでも有名です。滞在中にも、街の至る所で楽器を演奏している人々を目にしました。また、夜には中心の広場に沢山の人たちが繰り出し、楽団の演奏に合わせて踊っている場面にも出会い音楽や踊りで街があふれていることを肌で感じることができました。



サン・フアン・デ・ウルア San Juan de Ulua



サン・フアン・デ・ウルアはベラクルス港付近の島に建設された要塞です。スペイン植民地時代に海賊から街を守るために建設が始まったこの要塞は最初は簡素な作りでしたが、後に数度の拡張を経て城を有する現在の姿になりました。メキシコは 1821 年に独立を果たしましたが、スペイン兵が最後まで立て籠もって戦ったのがこの要塞です。1825 年に立て籠もっていたスペイン兵が降伏したことにより、スペインのメキシコ支配は幕を閉じました。その後、残された要塞は主に政治犯を収容するための刑務所として使用され、沢山の著名な政治犯が投獄されていたようです。

要塞の中には、刑務所として使用されていた頃の様子が再現されている場所がありましたが、海風が吹き込む光の差し込まない石造りの小部屋ですごく怖かったです。



また、この要塞には博物館が併設されており、オルメカ文明や植民地時代の展示を見ることができました。

特に興味深かったのは、ベラクルス周辺地域に発達しメキシコ文明の母体となったオルメカ文明に関する出土品です。今まで触れる機会があまりなかったオルメカ文化やその歴史を知ることができてとても楽しかったです。

エル・タヒン El Tajin

エル・タヒンはベラクルスの北東に位置する古代都市・遺跡で、世界文化遺産にも登録されています。名前のタヒンはこの地に住むトナカ族の言語で雷や稲妻を意味し、遺跡発見時、彼らの神話に登場する 12 人の雷雨の神がこの遺跡に宿るという信仰をもとに名前が付けられました。しかし、全体の 1 割しか発掘作業が進んでいないことなどから、トナカ族が築いた証拠はなく、滅亡の理由も未だ不明でメソアメリカの古代文明の中でも謎多き遺跡の 1 つとされています。



エル・タヒンで有名なのは球戯場です。この遺跡には 10 以上もの球戯場が残っていることから“古代球戯発祥の地”とも言われています。古代メソアメリカにおいて球戯は宗教儀礼として行われてきましたが、エル・タヒンでも生贄を決める為に球戯が行われたと言われています。石壁には生贄にされる球技者の姿を描いたレリーフも刻まれており、当時の球戯の様子をうかがい知ることができました。